授業科目名	教職入門		
授業担当者名	青木　一起		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1PED1-01
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	教職の社会的意義を深く理解し、現代社会を背景とした教育現場の実情を基に、教員の役割・資質・能力、職務内容等について理解し、チーム学校としての対応を考察することができる。また、教職観の変遷を踏まえ、自己の教職像をもち、教職への意欲を高めるとともに、適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」〇
授業の概要	教師の仕事は、やりがいに満ちた素晴らしい仕事であると同時に、子どもへの影響力も多大で重責を負う可能性もある。教師を目指す学生が、教育の意義や教師の役割と資質・能力、教師の職務内容、チーム学校としての組織的な学校運営と内外の専門家や関係機関等との連携の重要性等の学校教育や教師の仕事について基礎的な事柄を広範な視野で学ぶ。
学生に対する評価の方法	授業への参画態度（20%） 授業で配布する資料の記述や論述レポート等による授業内容の理解度（50%） グループワーク・ディスカッション等（30%）
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　ガイダンス（授業概要、進め方、評価方法・基準等）教職の意義 ＊第02回～14回は、授業時にレポートを提出し、次回フィードバックする。 第02回　教育現場から最近の子供たちの実態と諸問題 第03回　学習指導要領の変遷と新指導要領（2017）改訂の意義 第04回　生徒指導・進路指導について 第05回　問題行動への対応について 第06回　教育相談の意義と実践 第07回　カウンセリングの知識と面接法・質問紙法 第08回　学級経営と特別活動 第09回　教師にも求められる資質・能力 第10回　教育課程の仕組みと内容 第11回　教員の採用と様々な研修について 第12回　プログラミング的思考とＩＣＴを活用した授業構想について 第13回　教職の意義と教員の地位 第14回　学校経営と学校管理 第15回　授業全体の振り返りと省察
使用教科書	なし（資料は適宜配布する） （参考文献） 文部科学省「小学校学習指導要領解説　総則編」（東洋館出版） 藤本典裕編著「教職入門　教師への道」（図書文化）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	講義のグループワークやディスカッションのための事前準備（週60分） 講義資料の着実な習得のためのレポート作成（週90分）

授業科目名	児童教育課程論		
授業担当者名	佐藤　洋一		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1PED1-05
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	新学習指導要領を基準として各学校で編成される「教育課程」について、意義や編成方法を理解し、各学校・教科や領域の特色、授業者等の熟達段階等に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解できるようになる（学習指導案の作成方法や評価、授業分析・診断方法等の理解も含む）。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」〇
授業の概要	新学習指導要領は不確実で複雑・曖昧な社会を「創造的に生き抜き」「個人的・社会的にも幸福になる（Well-being)」ための教育観・能力観の考え方を受け、コンテンツベース（学習内容型）からコンピテンシーベース（資質・能力型）の教育観に大きく変わった。これからの教育では「知識や学びの質的価値」「主体的能動性（StudentAgency）」、学びを活用し未知の課題を探究したり、批評的・創造的な「課題発見・解決能力」につなげられることが重視される。 授業では、テクスト・自作教材資料を例に毎回の意見交換・振り返りシート記載等を行う。また、カリキュラム・マネジメントの観点から教育課程編成の意義や方法、授業診断・分析、評価方法等を理論的・実践的に検討していきます。
学生に対する評価の方法	1、毎回の「振り返りシート」記載と提出（40%） 2、総合的な課題発見解決能力等をみる「課題論述レポート」（40%） 3、意見交換、ディスカッション、プレゼンテーション等（20%）
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　ガイダンス、教育課程論基礎―問われる本当の教育とカリキュラム― 第02回　テクスト・自作教材、1・2章資質・能力育成と教育課程 第03回　テクスト　同　3・4章カリキュラムデザインと多様性 第04回　テクスト　同　5章　教育課程の位置づけと学習指導要領の変遷 第05回　テクスト　同　6・7章 カリキュラム・マネジメントの意義と考え方 第06回　テクスト　同　8・9章　単元構成論、学力形成の3観点 第07回　授業診断・分析の観点、授業デザイン論 第08回　テクスト・自作教材とディスカッション　10・11章　単元指導計画・学習の構想 第09回　テクスト　同12章　「学力」形成と評価の3観点、3つの柱 第10回　テクスト　同13・14章　アクティブ・ラーニング、ICT教材活用 第11回　テクスト　同15章　「真正の評価」の考え方と進め方 第12回　資質・能力育成と授業デザイン１―アカデミックライティングと資質・能力― 第13回　　同　２―クリティカルシンキングと創造性、資質・能力― 第14回　　同　３―「個人的・社会的にも幸福になる（Well-being)」ための教育観・能力観― 第15回　課題論述レポート、振り返りと学生受講結果受講アンケート、メタ学習
使用教科書	テクスト：松尾知明著『新版　教育課程・方法論』（学文社） 参考文献：文科省『新学習指導要領解説「総則」』『資質・能力を育てる教職カリキュラム研究　第1～4集』（名古屋学芸大学教職課程研究会）等。適宜紹介する。
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	テクスト内容・自作教材資料について考えと解釈をまとめる（意見交換・振り返りシート各20分）、課題論述レポートをまとめる（160分）等。

授業科目名	特別支援教育論		
授業担当者名	大島　光代、伊藤　佐奈美		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	オムニバス（大島　光代、伊藤　佐奈美）	ナンバリングコード	233-1SED2-01
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	特別支援教育の歴史や背景を知り、現在の制度や理念について理解するとともに、各障害種別の教育の現状、障害の特性と教育的な対応、教育課程、インクルーシブ教育システム等の基本的な知識を理解する。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」〇
授業の概要	特別な配慮を要する子どもは、通常の教育や保育を行う幼児教育施設にも在籍し、特別支援教育のスキルのニーズは幼児期から高くなっている。共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築を目指し、特別支援教育の基本的な考え方、制度やその対象、教育課程、支援・指導の方法は特別支援学校教員のみならず幼稚園・保育園等・小学校・中学校・高等学校・大学に至るまで教員や保育者がその知識とスキルを学ぶことが期待されている。障害に対する知識や医療・福祉との連携、合理的配慮など特別支援教育の基本について学ぶ。
学生に対する評価の方法	授業態度（30%）、授業内で行うレポート（30%）、最終回に実施する筆記試験（40%）などで総合的に評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション、我が国の特別支援教育の歴史 第02回　特別支援教育の制度と理念 第03回　特別支援教育の学習指導要領、教育課程 ＜伊藤＞ 第04回　障害に関する基礎的な理解①（知的障害）　＜伊藤＞ 第05回　障害に関する基礎的な理解②（発達障害：LD、ADHD） 第06回　障害に関する基礎的な理解③（発達障害：自閉症スペクトラム障害） 第07回　障害に関する基礎的な理解④（聴覚・視覚・運動障害） 第08回　重複障害・二次障害 第09回　福祉・医療・教育の連携と自立活動及び個別の教育支援計画 第10回　個別の指導計画 ＜伊藤＞ 第11回　保護者支援・家族支援 第12回　合理的配慮と支援教材・教具 第13回　就学支援・地域との連携 第14回　アセスメントの方法と実際 第15回　授業のまとめ・定期テスト
使用教科書	「特別支援学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領」 「特別支援学校教育要領　総則編（幼稚部・小学部・中学部）」 「特別支援教育概論　花熊暁・川住隆一・苅田知則　編著（建帛社）」
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	講義用のプリントを活用しながら復習をしたり、教科書や関連図書を読んだりして知識を深めるための学びを積極的に心がけましょう。新聞やニュースで報道される関連記事にも関心をもつようにしたいものです。また、授業で配布する資料は、自己学習で積極的に活用してください。教科書は、前期に履修した「特別支援基礎概論」と同じ「特別支援教育概論　花熊暁・川住隆一・苅田知則　編著（建帛社）」を使用します。教科書の引用文献を自分で探し読むなどして、学びを拡げるようにしましょう。時間は週60分を目安とします。

授業科目名	肢体不自由者教育方法論		
授業担当者名	吉村　匡		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-2SED2-09
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	①肢体不自由教育における教育課程に関する知識を学習指導要領に照らして理解する ②肢体不自由児童生徒の障害特性を理解し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成する上での要点を把握する ③肢体不自由特別支援学校における教科指導の工夫と自立活動の実践例を通して、指導内容・方法に関する実践的な知識を習得する
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・表現力等」◎、「学びに向かう力・人間性等」〇
授業の概要	肢体不自由教育の歴史から現代の課題を俯瞰する。教育課程とそれに付随する個別の教育支援計画・個別の指導計画、自立活動の指導の実際についてワークショップ形式も取り混ぜて実践力を養う。更に摂食指導の基本と、医療的ケア、キャリア教育、特別支援学校のセンター的機能等について学修し、肢体不自由児童生徒の指導・支援全般にわたる基礎的・基本的知識・技能を習得し、指導及び支援に必要な能力や態度を育てる。
学生に対する評価の方法	授業態度とミニテストの回答・感想・質問に対して毎回５点満点で評価する。全15回で75点。筆記試験に25点を配当する。合計100点満点で評価する。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　肢体不自由教育の歴史 第02回　肢体不自由特別支援学校の教育課程 第03回　個別の教育支援計画と個別の指導計画の例 第04回　教育課程Ａ（準ずる指導）の基本的な考え方 第05回　教育課程Ｂ（知的障害の教育課程代替）の基本的な考え方 第06回　教育課程Ｃ（重度・重複障害）の基本的な考え方 第07回　自立活動の歴史と指導の実際 第08回　教育課程Ａの具体的な指導（ＩＣＴ機器の活用と内容の精選） 第09回　教育課程Ｂの具体的な指導（生活単元学習、作業学習等） 第10回　教育課程Ｃの具体的な指導（自立活動を主とした指導の内容） 第11回　脳性まひ児童生徒の摂食指導の基本 第12回　医療的ケアの現状と課題 第13回　キャリア教育と進路指導 第14回　特別支援学校のセンター的機能と今後の課題 第15回　筆記試験・講義のまとめ
使用教科書	参考図書として以下の書籍を推薦する ①特別支援学校小学部・中学部学習指導要領，同総則編（小・中学部） ②肢体不自由教育の基本とその展開．2007，慶應義塾大学出版会 ③子どもの見方がかわるＩＣＦ．2009，クリエイツかもがわ ④最新摂食コミュニケーション．2004，㈱エポックアート
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	毎回、講義ノート(スプレッドシート)に回答・感想・質問を記入して提出すること。講義内容に関する論文や記事を精査し自己学習として定着させること。(各回90分相当)

授業科目名	障害アセスメントの基礎		
授業担当者名	中島　卓裕		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1SED2-06
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	本授業では、アセスメント方法として、いくつかの基本的な発達検査・心理検査を学び、結果の見方や活用の仕方を理解するともに、各検査の限界や問題点を理解する。アセスメントの結果をいかに本人や保護者と共有し、学校臨床の場に生かしていくかがわかるようになることが目標である。
ディプロマポリシーとの関連	「知識及び技能」◎、「思考力・判断力・表現力等」○
授業の概要	さまざまなアセスメントの中から代表的な検査について概論を説明し、実施しながら学ぶ。実施方法を単に知るだけではなく、それぞれの検査の効果と限界を踏まえて、現場での活用を考える。自分の理解と不明点等を明確にするために、レポートの提出を求める。
学生に対する評価の方法	受講態度・レポート：50%　　最終レポート：50%
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション、アセスメントの活用と目的 第02回　発達検査概論 第03回　新版K式発達検査の評価と活用 第04回　知能検査概論 第05回　WISC-Ⅳの実施と評価：言語理解、知覚推理 第06回　WISC-Ⅳの実施と評価：ワーキングメモリ、処理速度 第07回　WISC-Ⅳの活用 第08回　適応行動概論 第09回　Vineland-Ⅱ適応行動尺度の実施 第10回　Vineland-Ⅱ適応行動尺度の実践 第11回　Vineland-Ⅱ適応行動尺度の活用 第12回　パーソナリティ検査概論、質問紙法：Big Five 第13回　投影法：バウムテスト 第14回　発達障害に関するアセスメント 第15回　行動評価の方法と活用
使用教科書	滝吉美知香・名古屋恒彦（2015）特別支援教育に生きる心理アセスメントの基礎知識. 東洋館出版社
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	予習：次回の授業内容について事前に調べておくこと（30分） 復習：学んだ内容や体験を振り返り、関連する事項を調べたり気づきを書き記したりしておくこと（30分）。レポート課題がある場合にはその作成に2時間程度を要する。

授業科目名	心理面接演習		
授業担当者名	中島　卓裕		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1PSY1-14
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	支援対象者の心理や気持ちに沿った面接や話の聴き方は、対人援助場面で必須となるスキルである。相手を理解するためには話を聴く際の自分のクセや感情を理解することも欠かせない。よって、効果的な支援の基盤を作るために必要な心理面接の基礎を習得することが本授業のテーマである。次の3点を到達目標とする。 (1) 自分の感情や考え方のクセに気づくための方法を知り、実践できる。 (2) 心理面接の基礎的な技術を習得し、実践できる。 (3)　支援のための方法を知り、説明できる。
ディプロマポリシーとの関連	「知識及び技能」◎　「思考力、判断力、表現力等」○
授業の概要	心理面接の基礎的な知識、理論と技法について説明し、体験演習（ロールプレイ）や実践を行う。 授業内のみで体験を終わらせないために、ほぼ毎回、授業外での体験課題を課す。さらに、体験における自分の感覚や実践から得た考察を言語化できるようになることを目指すため、毎回、体験課題に基づくレポートの提出を求める。
学生に対する評価の方法	受講態度：20%　　毎回のレポート：40%　最終レポート：40%
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション：心理面接とは何か 第02回　自分の気持ちに気づく：自分の感情を知る（フェルトセンス） 第03回　自分の気持ちに気づく：自分の感覚を知る（マインドフルネス） 第04回　自分の気持ちに気づく：自分の考え方を知る 第05回　人の話を聴く：環境設定 第06回　人の話を聴く：心理面接の開始、インテイク面接 第07回　人の話を聴く：援助的態度（さまざまな応答技法を知る） 第08回　人の話を聴く：援助的態度（心理面接の実際を視聴覚教材で学ぶ） 第09回　人の話を聴く：援助的態度（応答技法の練習） 第10回　人の話を聴く：援助的態度（応答技法の練習） 第11回　人の話を聴く：援助的態度（応答技法の実践） 第12回　非言語を聴く：箱庭体験 第13回　対応する：友達作りをどのように支援するか？ 第14回　対応する：保護者をどのように支援するか？ 第15回　対応する：ストレスマネジメント
使用教科書	教科書は使用しない。授業内で参考文献を提示する。
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	予習：次回の授業内容について事前に調べておくこと（30分） 復習：学んだ内容や体験を振り返り、関連する事項を調べたり気づきを書き記したりしておくこと（30分）。レポート課題がある場合にはその作成に2時間程度を要する。

授業科目名	学習心理学		
授業担当者名	赤嶺　亜紀		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1PSY1-07
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	学習心理学は、生体が何をどのように学ぶのか、学んだ結果どのように行動が変わるのかについて実験研究を中心に展開されてきた領域である。本講義ではこれまでの学習心理学の成果を理解し、人間の行動を科学的にとらえる視座を得ることを目ざす。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」○
授業の概要	はじめに動物を対象として行われた実験研究を中心に取り上げ、学習の基礎的過程を説明する。その後、ヒトのより高次な行動と認知のメカニズムについて解説する。
学生に対する評価の方法	毎回の授業時に課すレポート（講義の要約など）と期末の試験の成績により評価する。評価の配分はおよそ、レポート：試験＝1：2 を考えているが、受講者の課題達成度により若干変動することがありうる。
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　遺伝と環境 第02回　初期経験 第03回　古典的条件づけ（1） 第04回　〃　（2） 第05回　オペラント条件づけ（1） 第06回　〃　（2） 第07回　技能学習 第08回　社会的学習 第09回　記憶（1）： ワーキングメモリ 第10回　記憶（2）： 知識の構造 第11回　言語と認知 第12回　判断と意思決定 第13回　外部講師による講義：学習理論の臨床への応用 ※ 第14回　試験および振り返り 第15回　まとめ： メタ認知と学習 ※第13回は外部講師による授業を計画しているが、時間割等の都合上、日程およびテーマを変更することがあるかもしれない。
使用教科書	指定の教科書はなし。毎回、プリントを配布する。
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	・シラバスあるいは授業時に示される次回の授業で扱われるテーマについて予習する（30分／週）。 ・授業の内容や日常の経験をもとに自ら問いをたて、調べる。授業時に関連する書籍を紹介するが、与えられたものだけでなく、図書館などを利用し、自ら興味のある書籍を選んで読む（60分～／週）。

授業科目名	臨床心理学		
授業担当者名	中島　卓裕		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	233-1PSY1-10
備考	児童発達教育専攻 実務経験のある教員担当科目		

授業のﾃｰﾏ及び到達目標	臨床心理学は、苦しみ悩む人である支援対象者の抱える問題を理解し、軽減・解消していくための実践的学問である。臨床心理学を構成する概念やさまざまな実践アプローチ、心理社会的問題のメカニズムを理解することが本授業のテーマである。次の2点を到達目標とする。 (1)臨床心理学の代表的な理論とそれに基づく心理アプローチの考え方を理解し、 　説明できる。 (2)臨床心理学が対象とする心理社会的問題のメカニズムを理解し、説明できる。
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎　「思考力、判断力、創造力」○
授業の概要	前半は、臨床心理学を構成する概念やさまざまな学派の考え方とそれに基づく実践アプローチについて説明する。後半は、精神疾患や心理社会的問題の臨床心理学的な理解および支援について説明する。講義を中心とするが、理解を深めるために、授業内で話し合いの時間を設けたり、レポートを課したりすることがある。
学生に対する評価の方法	受講態度・レポート：50%　最終の試験：50%
授業計画　（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション、臨床心理学の歴史、基本概念 第02回　診断・見立て・アセスメント 第03回　臨床心理学のアプローチ：精神分析的アプローチ 第04回　臨床心理学のアプローチ：行動論・認知論的アプローチ 第05回　臨床心理学のアプローチ：ヒューマニスティック・アプローチ 第06回　臨床心理学のアプローチ：システミック・アプローチ 第07回　臨床心理学のアプローチ：非言語的アプローチ 第08回　気分の変化の理解と支援：うつ、躁 第09回　不安な気持ちの理解と支援：社交不安症、場面緘黙 第10回　統合失調症の理解と支援 第11回　パーソナリティ障害の理解と支援 第12回　ひきこもりの理解と支援 第13回　依存・嗜癖の理解と支援 第14回　試験とまとめ 第15回　試験の振り返り、臨床心理学の研究
使用教科書	教科書は使用しない。講義内で参考文献を提示する。 参考 丹野義彦・石垣琢麿・毛利伊吹・佐々木淳・杉山明子 著「臨床心理学　Clinical Psychology: Evidence-Based Approach」（有斐閣） 野島一彦・岡村達也 編「臨床心理学概論」（公認心理師の基礎と実践３）（遠見書房）
自己学習　（予習・復習等の内容・時間）	予習：次回の授業内容について事前に調べておく（30分） 復習：学んだ内容を振り返り、関連する事項や疑問点を調べておく（60分）